



中間集計

市民アンケートの中間集計の結果も示して質問

自民・公明の悪政から くらし・医療をまもる

2009年第1回 定例2月議会 鈴木やす子議員の一般質問から



日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田1030-2

毎週 日曜日 発行

市議団
ニュース

ご相談は
お気軽に

市議会議員
福田 明
43-0468

市議会議員
鈴木やす子
42-2462

2月9日は、今任期中における一般質問の最後の機会でした。質問に立ったのは、日本共産党市議団の2名をふくめて6名でした。今号では、鈴木やす子議員の質問の概要を紹介します。

雇用悪化とくらし、国保減免

【鈴木やす子議員】 経済危機は当市においても市民生活に深刻な影響を及ぼし、子どもが独自に実施したアンケートにも切実な声が寄せられている。打てる手だてを総動員しなければならぬ。まず生活保護の実態をうかがう。

【市民福祉部長】 21年1月現在、非保護者世帯数が173世帯、保護率4・6%である。今年に入ってから相談件数は増加し、相談内容は派遣切り、無年金者、傷病等となっている。

【市民福祉部長】 平成19年度実績から積算すると、3歳以上の対象者は約1200人で、約950万円、事務費50万円を加え、計1000万円ほどと見込まれる。

小学校入学まで医療費を無料に

【鈴木議員】 小学校入学前までの医療費を無料にするのに必要な予算は。

【市民福祉部長】 平成19年度実績から積算すると、3歳以上の対象者は約1200人で、約950万円、事務費50万円を加え、計1000万円ほどと見込まれる。

市立病院の現状と課題

【鈴木議員】 私たちのアンケートでも、子どものいない家庭をふくめ、無料化について関心が高い。昨年の議会でする市長は3年後を目途とすることを答弁しているが、これに限定せず、できるだけ早い時期での年齢引き上げを求めたい。また母子保健の充実、少子化対策の柱の一つでもあり、母子手帳を交付するときから保健師とのつながりをもてるシステムを望む。

【鈴木議員】 この4月から、小児科診療体制の縮小が告知されている。

【病院事務部長】 県北地区の総合病院勤務医が5人となる。当院の小児科は外来診療のみとなり、時間外救急と入院治療は日立総合病院に集約される。

【鈴木議員】 小児科の救急入院ができなくなると、産科診療への影響はないのか。

【病院事務部長】 影響が出ないよう連携をとりあっている。また小児科以外の診療科については、これまで同様、地域の中核病院としての機能を維持していく。

質問余話

一般質問に先立ち、また質問の翌日にも、市立病院を訪ね、現場の率直な声を聞く機会を得ました。

小児科の縮小は、市立病院の意向だけではいかんともしがたく、県北医療圏全体の問題として変更されたということでした。これまでも幸い緊急性の高い救急が少なかったことや、入院は設備の整った日製病院となるので、デメリットばかりではないことをうかがい

患者への検査データの説明の改善を求める。

【病院事務部長】 詳細を明記した説明書の添付をしているが、渡し漏れのないよう徹底していく。

【鈴木議員】 病院における医療職と事務職、あるいは医療スタッフどうし、さらには管理職との連携などはうまくとれているのか。

【病院事務部長】 連携が不足していることは否めない。院内の運営会議・医局会議等において、コミュニケーションの向上策を講じ、風通しのよい、働きがいのあつる病院をつくりあげていきたい。

【鈴木議員】 新病院建設に

通学路の整備と情報集積

は、市長はじめ事務職と医療従事者との信頼関係は不可欠である。話し合いの場がきちんと保証されるよう要望する。さらに新病院建設検討にあたっては、ひろく市民の意見を反映していくべきである。

【市長】 検討委員会には市民代表にも入っていただき、座談会なども計画する。

【鈴木議員】 通学路の危険箇所について、行政として情報の集約・引継ぎが十分ではないか。

【都市建設部長】 調査をし、手だてを検討する。